

わが村は美しく

積丹町編

第十二回 大賞

美国・美しい海づくり協議会

余別・海HUGくみたい



養殖したホソメコンブを餌にしたキタムラサキウニの肥育実験をする地元漁師たち。

お話をしてくれた人



積丹町農林水産課 水産技術指導員
水鳥 純雄 さん



新たな積丹町のお土産として考案されたウニ殻のランタン。殻を通した光が美しい。

Vol. 231
積丹町のウニから海へ。
海の森づくりから始まった
未来につながる傑作プロジェクト。

特産品・ウニを守るため
海にも森づくりが必要だ！

毎年六月一日。北海道のある町で待ちに待った日がやってくる。日本海に面した積丹町で、ウニ漁が解禁される日だ。「ウニ井」を食べるための行列が、積丹町の夏の風物詩となっている。

しかし「積丹ブルー」と呼ばれる美しい海では、ウニの減少が続いていた。そこで生産量の減少を食い止めようと、海の森づくり・藻場造成活動が二〇〇九年にスタートした。藻場を造成するため、美国地区の「美国・美しい海づくり協議会」と、神威岬に近い西河地区の「余別・海HUGくみたい」の二つの団体が手を結ぶのでした。

ウニ漁は六月から八月の三カ月に限定。このうち昨年、ウニ漁に出漁できた日はわずか二十

三日だった。一方三カ月間に訪れる観光客は八〇万人近くにもなるそう。

積丹町農林水産課の水鳥純雄さんは話す。

「磯焼け現象により餌となる海藻（ホソメコンブ）が不足したこと、殻の中身がスカスカの身入り不十分のウニが増えて、生産量の低下が顕著でした。このままでは積丹のウニが途絶えてしまうと、藻場造成＝海の森づくりが推進されました」。

積丹町の海の森づくりはこうだ。「まずウニの餌となるホソメコンブを養殖。コンブの肥料には、これまで廃棄物だったウニ殻を活用します。コンブが育てばウニの品質も高まる。まずは海の森を育てる、これが積丹町の循環型再生産システムです」と水鳥さんは話す。

このシステムの効果が実証され、現在は、ウニ増殖サイクル

第11回コンクール



参加しよう、広げよう、いいもの伝えよう
「わが村は美しく－北海道」運動

積丹町へは、JR函館本線小樽駅から、中央バスが運行。周辺を散策するなら、小樽駅からレンタカー（4～10月に営業）を利用すると便利。積丹町では神威岬は必見。また美国地域では7月に海の安全と豊漁を願うイベント「火祭り」が開催される。ウニ井や観光の情報は積丹観光協会などのホームページを参考してください。

お問い合わせ／積丹町農林水産課 ☎0135・44・3382

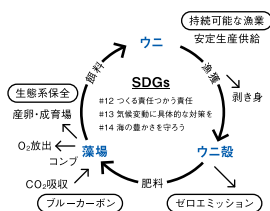


ウニ漁解禁とともに、朝獲りのウニをすぐ殻むきして提供されるウニ丼。



海藻がほとんど育たない磯焼けの海。ウニは生息しているが中身はスカスカで商品価値が激減。

ウニと藻場の循環型再生産



「鯛宝ツアー」では、大型のブリを目の前で捌き、味わう企画が大人気。



ウニの殻にラテックスを混ぜて固形化。地元小学生がウニの養殖現場を見学する様子。



これを藻場に投入して海の肥料とする。

とブルーカーボン創出プロジェクトとして発展している。

廃棄物のウニ殻が 海の森を豊かに育てる！

しだいに積丹町の海の森づくりは、全国からも注目されるようになる。最初に手掛けたのは、コンブを食べ尽くすウニの除去による畑づくり。次に胞子を出すコンブを畑に入れる種まき。これが整ったら最後にコンブの成長を促すウニ殻肥料を投入するという流れで徐々に海の森づくりを進めていった。

「工夫したのはホソメコンブの種苗を結びつけるロープに、予め窒素やリンが含まれているウニの殻から作った肥料を染み込ませたこと。この試験で肥料効果が確認できたので、ウニ殻を成形乾燥させた肥料ブロックを藻場に投入して磯焼けが徐々に改善されていきました」と水鳥さんは熱く語る。

造成された藻場で海中のCO₂を吸収することで環境保全にも一役買っている。

また、積丹型エコツーリズム推進事業として、(株)SHAK OTAN海森学校うみもりの設立にもつながった。ここでは、地元で獲れる体重7キロ以上で脂ののつたブリを船上で活締めしたものしほを「鯛宝」としてブランド化。この貴重なブリを目の前で捌き、味わうツアーを企画して大人気に。また町内の小学生などの体験学習とも連携。ウニ殻肥料ワークショップを開催するなど、個性的な体験を提供している。

さらに、水産と畜産の連携にも注目。町内の農業法人が飼育する羊の餌に養殖コンブを与えたところ肉質が向上し、「しおかぜ羊」としてブランド化された例もある。

漁師さんたちに聞くと「自分たちは当たり前のことをしているだけ」と控えめな人が多いけど、その取り組みこそ積丹町の魅力につながっている。ウニ以外の特産品づくりや漁業体験ツアーの提供など、新たなビジネスチャンスを広げ、積丹の魅力を増やすという取り組みは続いている。

❶



「わが村は美しく北海道」運動は、北海道の農林水産業をより豊かにするために、2001年にスタートしました。2年に1度コンクール形式で優秀な活動を表彰しています。コンクールは1年目に優秀賞、奨励賞を表彰し、2年目に優秀賞から大賞を決定。地域の資源を掘り起こし、地域の活力とすると同時に活動を広くアピールし、豊かな北海道を未来へと受け継いでいくことを目的としています。

お問い合わせ／国土交通省 北海道開発局 農業水産部農業振興課 ☎ 011・709・2311(内線5685)

